

大槌・気仙川流域の林業労働災害防止講話を開催しました



三陸中部森林管理署

令和7年9月17日、釜石市橋野町橋野第二国有林403林班を会場に、大槌・気仙川流域の林業関係者約60名の参加のもと、ニーズに対応した原木の供給を図るための「採材検討会」と林業労働災害の未然防止のための「林業労働災害防止講話」を、三陸中部森林管理署と大槌・気仙川流域森林・林業活性化センターとの共催により、開催しました。

木材は、長さ・太さにより取引される単価が大きく変化します。このため、どのように採材(伐採した立木を用途や市場の動向に合わせた長さに切断すること)するかが重要です。

「採材検討会」では、岩手県森林組合連合会職員の方々を講師として、最新の木材需要動向に関する情報提供のほか、より高い販売価格とするためにはどのように採材すればよいか、事前に準備したクリ・サクラ・カラマツを対象に採材方針を検討して、実際に切断を試みました。

このうち、サクラ1本については、「このくらいの位置で切れば、概ね腐れ(欠点。木材価格は下がってしまう。)の影響はないだろう」と予測して切断しましたが、予測以上に腐れが入っており、改めて採材の難しさを感じたところです。



丸太切断面(中心部欠点)

林業は全産業で最も高い労働災害発生率となっており、これを低減させ、いずれは撲滅させていく取組が重要です。

「林業労働災害防止講話」では、釜石労働基準監督署監督官を講師として、岩手県内及び釜石監督署管内の林業労働災害の発生状況のほか、林業における安全衛生対策一覧をチェックリスト形式で示しつつ、各項目わかりやすく説明をいただきました。

特に、ヒューマンエラー低減のための「指差呼称(作業対象や状態を確認するために、指で対象を指し、声に出して確認する手法)」について、実験結果を示しつつ、「何もしないで作業をする場合と比べて1/6までエラーが低減する」と、その有効性について説明をいただきました。作業を行う全現場に有効な取り組みであり、作業を行う皆様には是非取り組んでいただきたい、と感じました。

林野庁では、収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」の実現に向けて、各種取組を展開しているところです。

当日会場は、コスト低減のための取組の一つである「一貫作業(林業において伐採と植栽を同時に行うことを指します。)」の実施現場でもあることから、これらの事例紹介も行いました。

収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」の実現に向けて、今後もこのような会を開催し、管内の林業関係者の情報共有の場をつくるとともに、林業の安全性の向上に努めていきます。



会場を上空ドローンから撮影